中学校学習指導要領

特別の教科　道徳（道徳科）のポイント

文部科学省
初等中等教育局
教育課程課教科調査官　澤田浩一

独立行政法人教職員支援機構

はじめに

・「特別の教科　道徳」（道徳科）は、他の教科等に先んじて平成２７（2015）年３月に学習指導要領を改正し、中学校では平成３１（2019）年４月から全面実施

・道徳科で養うべき基本的資質は、多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢

・特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることではない

・発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」への転換を図る

・今回は、道徳科の目標、内容、指導、評価のポイントを、三点ずつ解説

道徳科の目標のポイント

（１）「道徳的諸価値についての理解を基に」
（２）道徳科で養うものと明確にされた道徳性
（３）道徳科における「見方・考え方」

（１）「道徳的諸価値についての理解を基に」
　道徳性を養うための学習の過程＝「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習」。

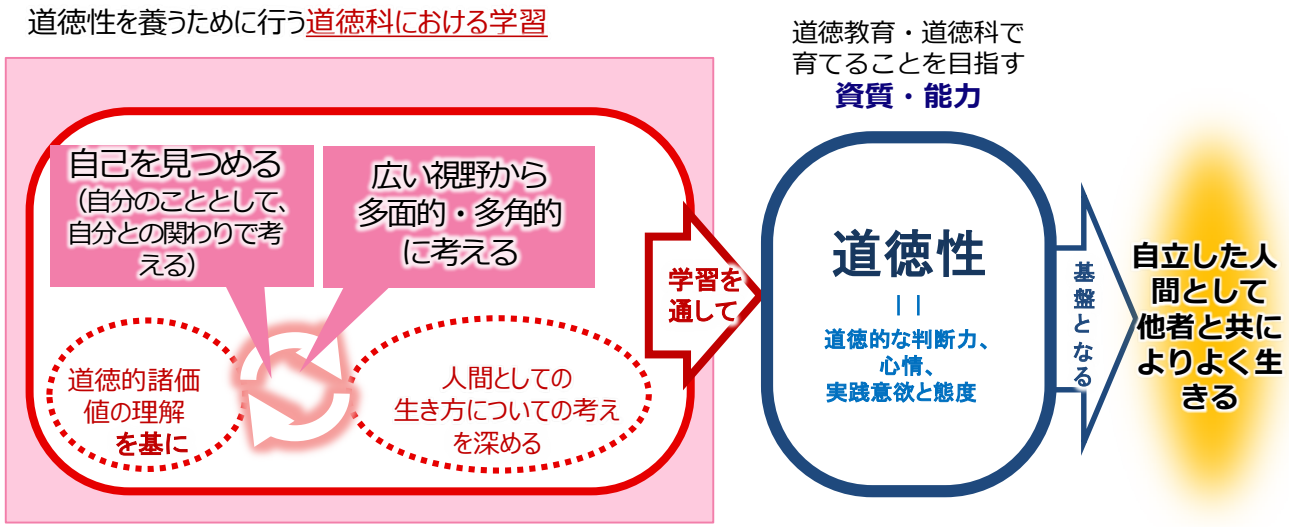
　他教科等の「知識及び技能」とは異なり、知識として理解すること自体が目的ではなく、理解を深めて道徳性を養うことが目標であることを示している。
価値の理解は、客観的に観念的に理解することではなく、自分のこととして考え、自分の生き方の手掛かりとして理解を深めていくということ。

道徳科の目標において、道徳性を養うために必要な学習の過程を明示。

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、

道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。



道徳科の目標のポイント

（２）道徳科で養うものと明確にされた道徳性

　道徳性を構成する諸様相である「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」は、それぞれ独立したものではなく、相互に関係し合い、切り分けられるものではない。

　内面的資質である道徳性の諸様相は、連携し合っており、道徳的行為を行うに当たっては、いずれも欠かせないもの。

⇒ 道徳性の諸様相を観点として観点別評価を行うことは妥当ではない。

（３）道徳科における「見方・考え方」

　道徳科における「見方・考え方」とは、今回の改訂で目標に示されている、「様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで広い視野から多面的・多角的に捉え、人間としての生き方について考えること」であると言える。

（平成28年12月中央教育審議会答申）

道徳科の内容のポイント

（１）視点及び各視点内の内容項目の順序の入れ替え
（２）内容項目を端的に表す言葉の付記
（３）発達の段階を踏まえた内容項目の構成の見直し

（１）視点及び各視点内の内容項目の順序の入れ替え
視点の入れ替え（左：これまでの視点、 右：今回の改訂による視点）

１　主として自分自身	A　主として自分自身
２　主として他の人とのかかわり	B　主として人との関わり
３　主として自然や崇高なものとのかかわり	C　主として集団や社会との関わり
４　主として集団や社会とのかかわり	D　主として生命や自然、崇高なものとの関わり

各視点における最初の内容項目
A「自主、自律、自由と責任」　B「思いやり、感謝」
C「遵法精神、公徳心」　D「生命の尊さ」

道徳科の内容のポイント

（２）内容項目を端的に表す言葉の付記

・道徳教育の内容項目を共有しやすいものとし、保護者や地域の方々との連携を深める

・内容項目を概観できるようにし、その全体像を把握しやすくする

・内容項目は、生徒自らが道徳性を養うための手掛かりとなるもの

・指導に当たっては、内容を端的に表す言葉そのものを教え込んだり、知的な理解にのみとどまる指導になったりすることがないよう十分留意

（３）発達の段階を踏まえた内容項目の構成の見直し

・小学校低学年からの中学校までのつながりを明らかにし内容の体系性を高め、児童生徒の発達の様子を踏まえ、ねらいをより明確にした指導を可能にするため

・生徒を指導するに当たっては、発達の段階を前提としつつも、
指導内容や指導方法を考える上では、生徒の実態を踏まえ、
個々人としての特性等から捉えられる個人差に配慮することが
重要

道徳科の内容のポイント

中学校の内容項目を端的に表す言葉

A　主として自分自身に関すること
- 自主、自律、自由と責任
- 節度、節制
- 向上心、個性の伸長
- 希望と勇気、克己と強い意志
- 真理の探究、創造

B　主として人との関わりに関すること
- 思いやり、感謝
- 礼儀
- 友情、信頼
- 相互理解、寛容

C　主として集団や社会との関わりに関すること
- 遵法精神、公徳心
- 公正、公平、社会正義
- 社会参画、公共の精神
- 勤労
- 家族愛、家庭生活の充実
- よりよい学校生活、集団生活の充実
- 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
- 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度
- 国際理解、国際貢献

D　主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
- 生命の尊さ
- 自然愛護
- 感動、畏敬の念
- よりよく生きる喜び

教師と生徒が人間としてのよりよい生き方を求め、共に考え、共に語り合い、実行に努めるための共通の課題

道徳科の指導のポイント

（１）道徳教育を推進するための指導体制の整備
（２）指導方法の工夫
（３）道徳科における「主体的・対話的で深い学び」

（１）道徳教育を推進するための指導体制の整備

・校長の方針に基づき、道徳教育推進教師を中心に全教職員の共通理解を図り、組織的に取り組む

・道徳科の指導は学級担任の教師が行うことを原則とするが、年に数回、教師が交代で全学級を回って道徳の授業を行うといった取組も効果的

・「解説」の22の内容項目についての指導の要点のページを読み解きながら、道徳科の年間指導計画を全教師の共通認識の下に作成することが大切

・現代的な課題を取り扱う授業においては、担当する教科の専門性を生かして学年の全学級を回って道徳の授業を行うことも考えられる

道徳科の指導のポイント

（２）指導方法の工夫

・主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話合いや、読み物教材の登場人物の心情理解のみに終始する指導、望ましいと思われることを言わせたり書かせたりすることに終始する指導などに陥らないようにする

・「道徳的諸価値の理解」と「人間としての生き方についての考え」とを相互に関連させながら深められるよう創意工夫し、多様な指導方法を取り入れ活用する

・道徳科における問題解決的な学習や道徳的な行為に関する体験的な学習等を取り入れたり、特別活動等の多様な実践活動等を生かしたりすることが考えられる

・生徒同士で話し合う問題解決的な学習を行うに当たっては、そこで何らかの合意を形成することが目的ではなく、将来、道徳的な選択や判断が求められる問題に対峙した時に、自分にとっても他者にとってもよりよい選択や判断ができるような資質・能力を育てることにつなげることが大切

道徳科の指導のポイント

（３）道徳科における「主体的・対話的で深い学び」

「主体的な学び」の視点から、

・生徒が問題意識をもち、自己を見つめ、道徳的価値を自分自身との関わりで捉え、自己の生き方について考える学習とすることや、各教科で学んだこと、体験したことから道徳的価値に関して考えたことや感じたことを統合させ、自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫する

・年度当初に自分の有様やよりよく生きるための課題を考え、課題や目標を捉える学習を行ったり、学習の過程や成果などの記録を計画的にファイル等に集積（ポートフォリオ）したりすることにより、学習状況を自ら把握し振り返ることができるようにすること
などが考えられる

道徳科の指導のポイント

（３）道徳科における「主体的・対話的で深い学び」

「対話的な学び」の視点から、

・生徒同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えたり、自分と異なる意見と向かい合い議論すること等を通じ、自分自身の道徳的価値の理解を深めたり広げたりする

・日頃から何でも言い合え、多様な意見を認め合える学級の雰囲気を作ることが重要
（特別活動－学級活動－との関連）

・資料を通じて先人の考えに触れて道徳的価値の理解を深めたり、自己を見つめる学習につなげたりすることができるような教材の開発・活用を行うことや、様々な専門家や保護者、地域住民等に道徳科の授業への参加を得ること
なども効果的な方法

・言葉により伝えるだけでなく、多様な表現を認めることも大切

道徳科の指導のポイント

（３）道徳科における「主体的・対話的で深い学び」

「深い学び」の視点から、

・様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための問題状況を把握し、適切な行為を主体的に選択し、実践できるような資質・能力を育てる学習とする

・道徳的な問題を自分事として捉え、議論し、探究する過程を重視し、道徳的価値に関わる自分の考え方、感じ方をより深めるための多様な指導方法を工夫する

・道徳的な問題場面には、
　㋐道徳的諸価値が実現されていないことに起因する問題、
　㋑道徳的諸価値についての理解が不十分又は誤解していることから生じる問題、
　㋒道徳的諸価値のことは理解しているが、それを実現しようとする自分とそうできない自分との葛藤から生じる問題、
　㋓複数の道徳的価値の間の対立から生じる問題
などがあり、これらの問題構造を踏まえた場面設定や学習活動の工夫を行うことも大切

道徳科の評価のポイント

（１）道徳科の評価の基本的な考え方
（２）生徒の学習状況を見取るための二つの視点
（３）評価するに当たっての配慮

（１）道徳科の評価の基本的な考え方

・数値による評価ではなく、認め、励ます個人内評価として記述式で行う評価

・個々の内容項目ごとではなく、大くくりなまとまりを踏まえた評価とすること

・他の生徒との比較による評価ではなく、生徒一人一人の成長に着目し、よい点や可能性、進歩の状況を積極的に受け止めて認め、励ますことが求められる

・学習活動により生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視

・調査書（内申書）に記載せず、高等学校等の入学者選抜の合否判定に活用することのないように留意

道徳科の評価のポイント

（２）生徒の学習状況を見取るための二つの視点の例

①一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうかを見取る視点の例

・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている

・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている

・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を広い視野から多面的・多角的に考えようとしている、など

②道徳的価値の理解を自分自身の関わりの中で深めているかどうかに関する視点の例

・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている

・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる

・道徳的な問題に対し自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値を更に深めている

・道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている、など

道徳科の評価のポイント

（３）評価するに当たっての配慮

・発言が苦手だったり、文章で書くことが苦手な生徒等に対する配慮

・ティームティーチングによる授業の実施など、学年全体で組織的に取り組むことも必要

・年に数回、教師が交代で学年の全学級を回って道徳の授業を行うといった工夫した取組の導入も効果的

・道徳科の学習活動における生徒の具体的な取組状況を、年間や学期といった一定のまとまりの中で、生徒が学習の見通しを立てたり学習を振り返ったりする活動を適切に設定しつつ、学習活動全体を通して見取ること　　など